

京城日報

支那の形勢

各督軍解散を主張

各督軍の解散は、支那の統一と安定の爲め、最も重要な問題である。現行の分省制は、地方の割拠を生じ、中央政府の権威を損なつてゐる。各省の督軍は、それぞれ自衛の爲め、軍隊を擴充し、地方の行政を専断してゐる。これでは、国家の統一が實現されず、民衆の苦難はますます深刻化する。従つて、各省の督軍を解散し、中央政府に統一した軍隊と行政機構を設けるべきである。

宣戰案討議延期

宣戰案の討議は、十九日の閣議で延期された。これは、現在の外交情勢が複雑化してゐるため、十分な準備を怠るべきではないと判断された。宣戰は、国家の重大な決断であり、慎重に検討されるべきである。

徐氏内閣讓受拒絶

徐世昌氏は、内閣の讓受を拒絶した。これは、徐氏が現在の政治情勢に責任を負ふことを望んでゐないことを示している。徐氏は、あくまで中立の立場を堅持する意向を示した。

獨逸宰相演説要領

獨逸宰相の演説要領は、和平の實現を主張するものである。獨逸は、和平を望んでゐるが、他国も和平の道に進むべきである。和平は、人類の幸福と世界の安定の爲め、最も重要な目標である。

英軍ブルグル占領

英軍はブルグルを占領した。これは、英軍の作戦が順調に進んでいることを示している。英軍は、引き続き進軍を続け、最終的に勝利を収めることを目指してゐる。

追加豫算

追加の豫算が提出された。これは、現在の財政状況に基づき、必要な経費を確保するための措置である。追加の豫算は、政府の財政政策を反映してゐる。

總督邸午餐會

總督邸で午餐會が開かれた。これは、政府の要人たちが集まり、重要な事項について話し合った。午餐會は、政府の意思決定に重要な役割を果たしてゐる。

山梨中將通過

山梨中將が通過した。これは、山梨中將の行動が正常であることを示している。山梨中將は、引き続き任務を遂行する意向を示した。

支那選手通過

支那選手が通過した。これは、支那選手の行動が正常であることを示している。支那選手は、引き続き競技に参加する意向を示した。

御慰問使動靜

御慰問使の動靜が報告された。これは、御慰問使の行動が正常であることを示している。御慰問使は、引き続き任務を遂行する意向を示した。

刊夕百九十

| 品名 | 数量 | 金額 |
|-----|------|-------|
| 米 | 100石 | 10000 |
| 小麦 | 50石 | 5000 |
| 大豆 | 20石 | 2000 |
| 雑穀 | 30石 | 3000 |
| 油 | 100石 | 10000 |
| 塩 | 100石 | 10000 |
| 炭 | 100石 | 10000 |
| 紙 | 100石 | 10000 |
| 布 | 100石 | 10000 |
| その他 | 100石 | 10000 |

在米不足

在米不足の問題が深刻化している。これは、天候の影響や需要の増加によるものである。政府は、在米不足を解消するために、緊急の措置を講じてゐる。

仁川選挙形勢

仁川選挙の形勢が注目されている。これは、各政党の支持率が変動しているためである。選挙の結果は、国家の政治情勢に大きな影響を与える。

刻下の急務

刻下の急務は、国家の統一と安定の確保である。これは、政府の最も重要な任務である。政府は、この急務を遂行するために、あらゆる手段を講じてゐる。

問の悪一日

問の悪一日は、国家の政治情勢に悪影響を与えている。これは、政府の政策が民衆の支持を得てゐないためである。政府は、この悪影響を解消するために、政策の見直しを進めている。

在米不足

在米不足の問題が深刻化している。これは、天候の影響や需要の増加によるものである。政府は、在米不足を解消するために、緊急の措置を講じてゐる。

仁川選挙形勢

仁川選挙の形勢が注目されている。これは、各政党の支持率が変動しているためである。選挙の結果は、国家の政治情勢に大きな影響を与える。

刻下の急務

刻下の急務は、国家の統一と安定の確保である。これは、政府の最も重要な任務である。政府は、この急務を遂行するために、あらゆる手段を講じてゐる。

問の悪一日

問の悪一日は、国家の政治情勢に悪影響を与えている。これは、政府の政策が民衆の支持を得てゐないためである。政府は、この悪影響を解消するために、政策の見直しを進めている。

在米不足

在米不足の問題が深刻化している。これは、天候の影響や需要の増加によるものである。政府は、在米不足を解消するために、緊急の措置を講じてゐる。

仁川選挙形勢

仁川選挙の形勢が注目されている。これは、各政党の支持率が変動しているためである。選挙の結果は、国家の政治情勢に大きな影響を与える。

刻下の急務

刻下の急務は、国家の統一と安定の確保である。これは、政府の最も重要な任務である。政府は、この急務を遂行するために、あらゆる手段を講じてゐる。

●土方の大喧嘩



間島視察團の本社訪問
輪轉機と寫眞班の機敏に興を催す

若き女の投身

▲九日目の勝負

わかれの感傷の程度はこれにて満
推察を乞ふと得意即抄の挨拶を試み
しも愛嬌であつた、一行は更に麻呂
の案内にて編輯室、整版部、寫真部
機械部等巡視

何れも感興深き

大夕の八甲山入後
中入徒
宮城一港紅鷗門常
城瀬通川大鴨門分
湖越銓花散
中銓花散

宿業嶽遊友渡り
荒玉より朝日風
麓三ツ木大門岩
三杉藏有石の高
沼瀨川紅石
一港紅鷗門常
宮城一港紅鷗門常
城瀬通川大鴨門分
湖越銓花散
中銓花散

友の浦矢智山
東雲紀の足見
福船帆見根田
祖花柳大町
源氏山樫大戸
常門の花散
大鴨門分國鳥
銓花散

遊び場所は何處か
と晴れた五月空の下、春

ひしれたもののみなを薙がへらせ
おかぬやうに
▽初夏の風 お、輕衣の袖
ぶる野になつた、若葉の日陰の
を何處へ遊ばう、花の望には見
もされなかつた清涼里は歡びに
やうな新緑の装ひを凝らして來

撲面白からんと満場多大の興味
つて觀る内に立ち上るやバツタ

四ツ錦島上手上手に襦を引き大
右上手を引かんと右を引かせ
吸を圖る内更に右を門に捲めて呼
なれば錦島それ門に捲めて呼
圖る内錦島強引に極めて出さん
を大錦頭を敵の胴につけ金剛
寄切り大錦の膝は大喝采なりき

(中 入後)

△八甲山に大瀧は右四ツ若も無
出して大瀧の勢も別と意の長

月開館の樂庫集臨會協會を十
 後開館一同登梁津にて仁川水
 地を昇學の十更二葉は可群の

子別莊にて默然夕刻歸京せり
○金光數回大門會所吞李大夫
查和朝國內一五六十日午後二時
行京城・龍山・仁川の各會會長參
の豫戒に依り古俗者の人あり
●曹洞宗別院(若草町) 二十日午
日藏會所開會

伊勢濱に宇都宮は右四ツ伊勢に吊り出さんとするを宇都外

彌高山 (大門岩 常の花)
 藤の川 (明 八甲山)
 駒の泉
 源氏山
 野田山
 吉野山

七布を拵つて進け延つたの
であつた

金牌
髪を黒く長くつや
髪を黒く長くつや
髪を黒く長くつや

大正十一年三月

[illegible]

女全清毒袋製造元京城明治

●萬年筆
電二五二七ウツボヤ書店
●古本・古樂器買受は絶大
三五七本町ウツボヤ書店

架一氏、生後五ヶ月の
者自筆展覧携帶但妻帯者
大國通運株式會社 京坂

恩給年金長期即
長短期其無保險確實融通並
毛短し右の圖大失ひ
されし方には相當の御謝
門添明三丁目三(父罷開
○犬體狂大病豫防注射
入錢 小川家畜
隨着 京城明治

……戀に狂ふ
族の裏面を

を表現した

茶豆

立29
二丁目
本院
ホー
ン32
御迷れ知
寫眞最良尺
實寫五時三
滑稽五時四
舊劇六時
御見落し
本寫眞上場

族の令嬢墜落せる現代

涙の多き教訓大悲劇
大寫眞
平記
井正雪
五

— 10 —

付正午後五時卅分、
五分、活劇八時
五分、新派九時廿
五分、
御早來願上候
に限り從來發行の招待

100

1

破天荒

特別大興行

○當る五月 自二十日(七日)間 公開
至廿六日(百曜日)晝夜(二回)
連續 天活會社秘藏の三大映畫
公開

○徹頭徹尾稀代の大冒險大活劇

ホーリン 全十篇二
十卷の内
四卷上場

THE PERIL OF PAULINE

有名なる冒險俳優の人氣投票にて第一
一位を占たる米國バレー社專屬パール
ホワイト嬢のホーリンに扮し電光石火
危險の早業は思はず手に汗を握らしめ
唯だ呆るゝばかりなり……

○有松燒衣氏脚色

新派 悲劇 **盡させぬ縁** 場五十
戀に狂ふ華族の令嬢墮落せる現代華
族の裏面をあらはし女的美點と弱點
とを表したる涙の多き教訓大悲劇

○未曾有の大寫眞

慶安太平記

舊 偉 傑 **由井正雪** 六十
五場
丸橋忠彌 澤村四郎五郎 辯(藤本入道
由井正雪 市川延十郎 土山本一夫
……如何に撮影に苦心したるか近來稀な
る大道具大仕掛の大撮影寫眞なり

○寫眞最長尺に付正午後五時卅分々映寫
○實寫五時二十分々 活劇八時々
○滑稽五時四十五分々 新派九時廿分々
○舊劇六時十分々

御見落しなく御早來願上候
本寫眞上場中に限り從來發行の招待券
及特種入場券は御斷申候

本に(一等 四十錢
興限三等 三十錢
行三等 十五錢
中(軍人學生半額)

黃金館

血潮の雲
「大團圓」

「閣下、その事は、何方でも宜いので御座います。」
幸三郎は、勿論現代に對する不滿からでもあらうが、相違なく只哀れ切らぬやうな生返事を爲して居た。「何方でも好い」では？ 倉橋君、皇親憲に言つても、君はまだ乃公と現代との間に、一生涯に不可らざる齟齬でもあつたものと信じ詰めて居るんぢやねつ？」
男爵は、最早復び繰返さじとやうな最後の強い聲と鋭い眼とを以て念を押された。



操の一念を認めて呉れずに、良人は飽まで自分の懺を疑つて居ればこそ何の彼の心謎のやうな口實を設けて自分を追ひ退けやうとは努むるのであらう。いや、正しくそれに違ひないのだ。もう是である。疑はに疑へゝ妾の濁汚な心は、觀音標がちやんと見届て下さる筈であらう。「……阿兄さん、郎君は飽まで妾の懺を疑つてお在でせうが、妾は決して郎君を疑つては居ません。妾は死んだ後でも必ず「郎君の許婚の絹代ですからね。」

絹代は、肩を裂くやうな曲れた悲痛な聲を發して、只ツた一言響く叫べんのかと悲しよと、つゞと膝を起つて屏風の側へ差寄つたが、何時か如何にして隠し持した居たのか、一挺の西洋剃刀を取出すと等しく、ちばと我が左手の腕脈を目覺けて一文字に撻ツ

時ほ幸三郎の時賣なる謂を容れて、種子の復讐を計し、同時に正式を経て夫人の位置に據られたのである彼の殘酷なるお久も、絹代の死に依つて心から罪非を悔み、且種子の生れないが、折が明瞭したので、公然たる男爵と成金義原との交際には、全然絶たれて了つて、事業失敗後の整理も漸く程に就いたらし（大星）

□京城俳句會
第五回會
第四百六十一號

渡舟傾けて水臥ふ牛や帝風
青嵐帆高く春來は鐵塊
青嵐風と大官に傳喚へたる
衣更へて藥水の斑を戀入る
青嵐より雲の色見て撮る寫真
二階より波聲呼ぶ人や青嵐
青嵐や女の連れに猛き犬
青嵐海より戻くる川燕汽
青嵐の樹陰を狭く生徒哉
田打夫

櫻黃子
耕伯
草丘
竹水
水堂
客星
田打夫

破翁

新刊紹介

⊕ 尾張屋ヤメスリ店

歴いませが……陛下、私には總ての物事を私の意志通りに爲る事の出來がたい事情があるので御座います實を申し上げますと、私の描き上げました此の大慈譚の底には、四六時中怨みの眼を睨り、悲みの叫びを立てつゝ私の遺書を墨視して居る所の一個の若い女があります。私は譬ひ、三代に對する一切の疑ひが晴れたる致しましても、到底親類の約束に従つて、三代と公然の夫婦になる事は出来ぬかもしれませんが、折角ながら此の上は斷じて三代に關する事は善惡共に御目饒下さらぬやう、切にお願い致す外は御座いません。

『はてこの左様な女が此の怒りの底に沈みどるのかの。乃公には顔と影にさへも見えぬが……三代、お前には多少その影が見て居んぢやうなね。』

じきと云ひ、幽匿の恐しさが、何ともなしに此の屏風の畫と似通つ居るやうな感じが爲た丈の事であれば、三代は弱しさうに顔を拾けて、暫時金屏風の畫面を凝視したる是我が懐かしき良人の丹精に成つた作には違ひないのであるが、今現その良人と膝と膝を突き合はしてながら「他人になれ」と宣告せられた果敢なきを思へば、魂も消ゆも寸斷るゝばかりの悲哀が滅き病苦の身身に、もう語を發す元氣もなくかつた。怒りの底にそ影が潜んで居やうと居まいと、女は事には屈して自分の知る所ではなからざる迫害に遭ひ、悲運の底に責められて幾度ぞなく、死の苦忍んで、今日まで立て過して來て

塗れて無用の長物となつてしまひました。閣下が若し私に此の屏紙を下し置かれる事が出来れば、私は永久に此の怒濤と此の血月とを眺めて、獨身に終りたい覺悟で歸座いたします。

幸三郎は、默然として絹代の死體を視入つて、服を穿きながら云つた。

「いや、罪は君ばかりぢやない貴族の身を忘れ、利慾と淫樂とのみに耽つた乃公こそ彼等の大半を分たねばならんぢや」

男爵も、今更の如く慚然として、腕を拱かれたのである。

間に満く五月雨の空には恰度此の大悲劇の凄切れを知らすかのやうに杜鵑の聲が聞けた。而も一聲……

その後半月ばかりの漫ろ無期明

外出の好季節

手にく仁丹忘れずに
行けく山へ行け川へ

仁丹召せば

愉快百倍

金言
愚者は言葉（ことば）を弄（もよほ）し賢（けん）者は
聞くにあらざれば答（こた）へず
俚諺（りげん）

お
う
い
句
ひ
!

一流石は世界で一番信用のある

金鷄香水

聞きしに勝るい、匂ひ

仁丹活用

運動散步の時仁丹
 遠足旅行の時仁丹
 息切咽渴の時仁丹
 一寸一服の時仁丹
 煙草の代用に仁丹

歩の時仁丹
行の時仁丹
急の時仁丹
服の時仁丹
代用仁丹

即

店員至急募集
 齡十六歳より二十歳迄但市内に確
 たる保證人を要す
 龍山漢江通一三電話四五番
 龍山堂書店

土

支那領事館前通

南貨店

目下上物澤山入荷致候候
 間本年も倍舊の御用命奉
 待入候
 川魚鳥類屋間
 御用達
 宇田商店
 龍山元町四丁目漢江河岸
 電話二五番

營桑種子 土佐 最特撰
四圓五十錢 土佐 四十二圓
營桑種子 土佐 特撰
三圓七十錢 土佐 三十五圓
營桑種子 土佐 一切前金
取方法

最新刊

[illegible]

| | | | | |
|-------|--------|------|------|----|
| 天下の糸平 | 新古今集 | 合本 | 田吉太郎 | 九〇 |
| 神祕物語 | 北原白秋 | 夏目漱石 | 六〇 | 三〇 |
| 草と亞細 | 鍋島原居一郎 | 二〇〇 | | |

美文の作りやう 吉川 直城 四五
小野名人 將棋秘訣 小野 五平 六

 大阪屋 書店

花柳病專門
外科
梅毒 淋病 泌尿生殖器病

婦人病の神經衰弱ヒステリ
ア等丸
京坂南大門通興工銀行裏
司生堂醫院

亡^レ銓 葬儀の際は御會葬
被下難儀御禮申上候
五月十九日
妻 富増俊子